



子どもたちに  
未来をつなぐ

虹と緑の政治を目指す市民派  
地方から政治を変える

## 越前市議会議員 山崎たかとし

### プロフィール

- 1949年 今立町に生まれる 武生高校を卒業し京都へ
- 1973年 龍谷大学大学院修士課程(日本史)中退  
学生時代に水俣病支援のボランティア活動に関わる
- 1985年 この頃から自家用に有機無農薬野菜の栽培をはじめ
- 1991年 鯖江ヘルスクッキングスクール基礎課終了
- 1992年 「足羽川の清流を愛する会」設立の発起人になる
- 1993年 チェルノブイリ被災地にボランティアで救援物資を届ける
- 1994年 今立町「町づくり基本計画」策定委員に委嘱
- 1998年より 全国の市民派議員による緑の政治を目指す運動に参画
- 2005年より 関西学院大学嘱託講師(公共政策)

職業： (株)山崎和紙 代表取締役

著書：『福井の月の輪熊と原発』『福井のイヌワシと原発』(八月書館)

環境の世紀のキーワード：『スモール・イズ・ビューティフル』  
英国石炭公社顧問のE・シューマツハ博士(経済学)は、物質至上主義と  
巨大技術信仰には未来がないと考え、原発に警鐘を鳴らし、農村で生まれ  
た等身大の技術(日本では和紙などの伝統産業)に希望を託しました。

\*「虹」は多様性・共生を、「緑」は環境・平和・人権などを意味します。

“ 私たちも応援しています ” (敬称略)

- 岩野 平三郎 (和紙・県無形文化財 / 越前市岩本町)
- 大瀧 由紀子 (主婦 / 越前市野上町)
- 小木曾美和子 (原子力発電に反対する福井県民会議)
- 笠原 一浩 (福井弁護士会 環境委員)

### 《ごあいさつ》

1970年代のはじめ、私は水俣病患者との出会いをきっかけに、弱者や少数者の視点を忘れずに生きようと心に決めました。

かつて私たちが異議を唱えてきた「全国総合開発」や「リゾート開発」は昨年ようやく政策が見直され、大量浪費社会の象徴である原発政策も転換期を迎えています。財政破綻の主要因である巨大公共事業からの脱却は急務です。

町議時代に、環境ホルモンを出さない学校給食食器への切り替えや給食パンの残留農薬の検査、ヨウ素剤の配備を提案し実現しました。時代は今や確実に、環境・スローライフに向かい、「地産地消」など食の安全に関心が寄せられるようになりました。私はこれからも、誰もが心穏やかに暮らせる社会を築くために力をつくします。

.....

チェルノブイリ訪問でお世話になった家族。汚染された故郷をすて、200<sup>\*</sup>離れた首都ミンスクに移住してきました。健康に不安がある中でも、明日に希望をもって生きています。私たちも、憲法9条を守り、核も戦争もない世界を築きましょう。



## 子どもたちに未来をつなぐ会 (山崎たかとし後援会)

〒915-0235 越前市不老町6の36 tel:0778(42)3630  
e-mail:oiizu3630@rp.ttn.ne.jp http://www3.ttn.ne.jp/~oiizu3630/